

略字

- p. iii, -17 pres.A.pt. present participle → participle
 p. iii, -15 pres.act.pt. present active participle → participle
 p. iii, -14 pres.pass.pt. present passive participle → participle

第1章

- p. 13, -5 木は葉を (空中に) 運ぶ。 → つけている。
 p. 13, -1 vahanti (空中に) 運ぶ → 所有している
 p. 16, 8 नरः श्राम्यति जलं च पिबत् - पिबति
 p. 16, -12 人は月をながめて満足する。 → 喜ぶ。
 p. 16, -6 tuṣyati 満足する → 喜ぶ
 p. 19, 1 彼は、かむ → 噛む
 p. 19, 3 daśati (彼は) 咬む → 噛む
 p. 22, -8 鳩達は、噛みません。 → 咬みません。
 p. 22, -4 daśanti 噛む → 咬む
 p. 23, 6 私は遊びそして満足する。 → 喜ぶ。
 p. 23, 9 tuṣyāmi (私は) 満足する → 喜ぶ
 p. 26, -7 狼が少年に咬みつく。 → キツネが少年に噛みつく。
 p. 26, -5 śrgālo 狼 (が) → キツネ
 p. 26, -3 daśati 咬みつく → 噛みつく
 p. 28, 9 आचारः सुकहं सृजति - सुखं
 p. 29, 12 飾りによって人は満足する。 → 喜ぶ
 p. 29, -10 tuṣyati 満足する → 喜ぶ
 p. 31, 5 月を少年達に彼らは、指し示す。 → 彼らは、月を少年達に指し示す。
 p. 31, 10 食物を得るために家に私は行く。 → 食事のために家に私は行く。
 p. 31, -10 annāya 食物 (を得るために) → 食事 (のために)

- p. 33, 1 家のまわりをジャッカルが徘徊する。→ キツネ
- p. 33, 6 śṛgālā ジャッカル (が) → キツネ
- p. 37, 1 ジャッカルは食物を見つける。→ キツネ
- p. 37, 3 śṛgālo ジャッカル (は) → キツネ
- p. 38, 1 彼はジャッカルを見て走り去る。→ キツネ
- p. 38, 4 śṛgālam ジャッカル (を) → キツネ
- p. 39, 7 村の外にジャッカルたちは住んでいる。→ キツネ
- p. 39, -10 śṛgālā ジャッカル (たちは) → キツネ
- p. 45, -7 馬とジャッカルは獣である。→ キツネ
- p. 45, -4 śṛgālaś ジャッカル (は) → キツネ
- p. 63, 1 ジャッカルは肉を好む。→ キツネ
- p. 63, 4 śṛgālāya ジャッカル (に) [は] → キツネ
- p. 72, -3 王の息子は先生の娘と結婚した。→ 妹
- p. 73, 4 bhaginīm 娘 (と) → 妹
- p. 86, 8 昔、朝早く私は起きて、そして田畑に行った。→ ある時
- p. 86, 11 ekadā 昔 → ある時
- p. 86, -11 おお！指導者よ、「英雄達の軍には恐怖心が存在しない」と、伝えなさい。
→ 「戦士達は軍勢に対して恐怖心を持っていない」
- p. 86, -5 camvā (gen.sg.) 軍 (にとっては) [は] → (abl.sg.) 軍勢 (に対して)
- p. 86, -4 vīrāṇām 英雄 (達の) → 戦士達 [は]
- p. 104, 8 samīpam の近くに → ~の近くに
- p. 106, 1 言ってみれば、早朝、王がこの私を見たのです。→ 早朝、王もこの私を見たのです。
- p. 106, 5 api 言ってみれば → ~も
- p. 113, -8 君たちの舌を動かし両眼を輝かしなさい。 → 君の舌を動かし、両眼を輝かせ。
- p. 113, -7 युष्माकं जिह्वां चलतु नेत्रे प्रकाशताम् - तव जिह्वा
- p. 113, -6 yuṣmākaṃ jihvām calatu netre prakāśatām → tava jihvā
- p. 113, -5 yuṣmākaṃ (gen.pl.) yuṣmad(pron.) 君 (たちの)
→ tava (gen.sg.) yuṣmad(pron.) 君 (の)

- p. 113, -4 jihvām (acc.sg.) jihvā (f.) 舌 (を) → jihvā (nom.sg.) jihvā (f.) 舌 (は) [を]
- p. 113, -3 calatu 動かしなさい → 動かし
- p. 113, -2 netre (acc.du.) (両) 目 (を) → (nom.du.) (両) 目 (は) [を]
- p. 113, -1 prakāśatām 輝しなさい → 輝かせ
- p. 122, 3 स्वलपं → svalpaṃ
- p. 122, 4 बहोजनम् → bhojanam
- p. 130, enad → etad

第2章

- p. 154, -3 upaviśate → upaviśyate
- p. 159, 5 parivrāḍ- → parivrāt-
- p. 159, 6 ḍhimavantam → himavantam
- p. 160, -10 matimadbhir (inst.pl.) matima → matimat
- p. 164, 6 tvaṃ (nom.sg.) yaśmad → yuśmad
- p. 164, 7 dhanauatā (gen.pl.) dhanauat (f.) → dhanavatām (gen.pl.) dhanavat (m.)
- p. 170, 3 ata- → ata
- p. 170, -9 tad (acc.sg.) → (nom.sg.)
- p. 172, -1 bahvyo nāryo hatāḥ, tāsām tanavaḥ siṃhasya dantair dīrṇāḥ (dāritāḥ) /
→ bahvyo
- p. 176, -1 (というのは) 宝石によって飾られた蛇は、恐くないのか? (恐ろしいだろ!)
→ (というのは) たとえ宝石によって飾られようとも蛇は、(恐ろしい)
- p. 177, 10 快樂が、楽しむのではなく、ただ我々が楽しむのである。
苦行が実践するのではなく、ただ我々が実践するのである。
→ 快樂を楽しむのではなく、我ら自身を楽しむのである。(身体の、あるいは生命の)
熱を熱するのではなく、我ら自身を熱するのである。
- p. 177, -13 bhogā 快樂 (が) → 快樂 [を]
- p. 177, -10 vayam 我 (々が) → 我 (らを)
- p. 177, -9 eva ただ → 自身

- p. 177, -6 tapo 苦行 (が) - 熱 [を]
- p. 177, -4 taptam 実践するので - 熱する
- p. 177, -3 vayam 我 (々が) - 我 (らを)
- p. 177, -2 eva ただ - 自身
- p. 177, -1 taptāḥ 実践するのである - 熱するのである
- p. 182, -7 mantriṇe (acc.sg.) - (dat.sg.)
- p. 185, 13 落胆し、疲れ、喉の渇きによって困惑して家を捨てた二人の学識ある婆羅門が、
ゆっくりと河の岸辺を歩いているのが見られた。
- 出家した二人の学識あるバラモン僧は、落胆し、疲れ、喉の渇きによって
困惑していた。(彼ら二人が) ゆっくりと川の岸辺を歩いているのが見られた。
- p. 187, -8 自我の偉大さは多くの聖者によって称えられてきた。 - 魂
- p. 191, -8 jyotsnā 光 (が) - 月光
- p. 195, 6 老いは威嚇しながら雌虎のように立つ。 - 立っている雌虎のようだ
- p. 195, 7 病気は、敵のように肉体を攻撃する。 - 肉体を攻撃する敵のようだ
- p. 195, -11 iva ～ように - ～ようである
- p. 195, -6 rogās 病気 (たちは) - 病気たち (は)
- p. 195, -4 śatrava 敵 (たちが) - 敵たち
- p. 195, -3 iva ～ように - ～ようである
- p. 200, -5 labhyethāḥ (2.sg.opt.) - (2.sg.opt.pass.)
- p. 210, 1 もしライオンが山犬よりも強いなら - キツネ
- p. 210, 5 śrgālād 山犬 (より) - キツネ
- p. 215, -9 yad vadati mūrkhās tad matimāñ śrotuṃ na-icchatī / - matimān
- p. 215, -4 matimāñ - matimān
- p. 216, 10 tvayy (य्य - यि) - (yy - yi)
- p. 220, 3 गृहे दह्यमाने कूपं खातुमारभमाणा - खनितुंआरभमाणा
- p. 220, 4 gr̥he dahyamāne kūpaṃ khātum ārabhamāṇā - khanituṃ
- p. 220, 10 khātum - khanituṃ
- p. 222, 1 医学の王よ! - 医者

- p. 222, 4 **vaidya-rāja** 医学の王よ! → 医者
- p. 222, 5 **vaidya-** 医学 (の) → 医者
- p. 223, -11 षड्दोषाः पुरुषेणेह हातव्या भूतिमिच्छता । → षड्दोषाः
- p. 223, -10 **ṣaṣ-doṣāḥ puruṣeṇa-iha hātavyā bhūtim icchatā** / → **ṣaḍ-doṣāḥ**
- p. 223, -9 **ṣaṣ-doṣāḥ** (comp. nom.pl.) **ṣaṣ-doṣa** → **ṣaḍ-doṣāḥ** (comp. nom.pl.) **ṣaḍ-doṣa**
- p. 223, -8 **ṣaṣ-** → **ṣaḍ-**
- p. 226, 1 子供たちがみんな遊んでいる時、私たちは詩を書くことができた。 → できる
- p. 226, 11 **śaktāḥ** できた → できる
- p. 229, -6 **āmram** (acc.sg.) → (nom.sg.)
- p. 229, -5 **āmram** (acc.sg.) → (nom.sg.)
- p. 230, 1 (客) 私はマンゴーを見よう。(売) 旦那様、ごらん下さい。 → 旦那さん
- p. 230, 5 **paśyāni** (私は) 見せてください → 見よう
- p. 230, 7 **bhavān** 旦那様 (は) → 旦那さん
- p. 230, 8 (売) 今日、このような果物を旦那様は → 旦那さん
- p. 230, 9 तादृशं फलमद्य कुत्र भवता प्राप्तुं शक्यते ? → एतादृशं
- p. 230, 10 **tādṛśam phalam adya kutra bhavatā prāptum śakyate ?** → **etādṛśam**
- p. 230, 11 **tādṛśam** (nom.sg.) **tādṛś** → **etādṛśam** (nom.sg.) **etādṛś**
- p. 230, 15 **bhavatā** あなた様 (によって) [は] → 旦那さん
- p. 231, 13 (売) いいですよ!あなた様はいくらなら → 旦那さん
- p. 231, -13 **bhavatā** あなたさま (によって) [は] → 旦那さん
- p. 231, -7 (売) 旦那様は私をからかいたいのですか? → 旦那さん
- p. 231, -4 **bhavān** 旦那様 (は) → 旦那さん
- p. 232, 1 (売) 私がこの果物を仕入れた値の方があなたの言い値より → 旦那さん
- p. 232, 11 **bhavato** あなた (の) → 旦那さん
- p. 232, -8 (売) 旦那様、ちょっと待って下さい。 → 旦那さん
- p. 232, -4 **bhavān** 旦那様 → 旦那さん

第3章

- p. 245, 2 यदि ममापराधो नास्ति त्वं किमर्थं मामपकरोषि ? - ममापकरोषि
- p. 245, 3 yadi mama-aparādho na-asti tvaṃ kimarthaṃ mām apakaroṣi ? -
mama-apakaroṣi
- p. 245, -10 ジャッカルを見て森の動物たちは、彼を殺すことに決めた。 → キツネ
- p. 245, -7 kroṣṭāraṃ ジャッカル (を) → キツネ
- p. 256, 1 その (象) を見て、すべてのジャッカル達は → キツネ
- p. 256, 7 śrgālā ジャッカル (達は) → キツネ
- p. 256, -3 そこで一匹の年老いたジャッカルが約束した。 → キツネ
- p. 257, 3 vṛddhaśrgālaḥ 年老いたジャッカル (が) → キツネ
- p. 257, 5 śrgālaḥ ジャッカル (が) → キツネ
- p. 257, -13 直後にそのジャッカルは、 → 詐欺師
- p. 257, -8 vañcakaḥ ジャッカル (は) → 詐欺師
- p. 258, 1 『ご主人様！ よろしくお願ひします。』と (ジャッカルは言った。) → キツネ
- p. 258, -13 『私はジャッカルでございます。 → キツネ
- p. 258, -6 jambūko ジャッカル (である) → キツネ
- p. 260, 1 それで、カルプーラティラカはジャッカル (によって示された) 道を → キツネ
- p. 260, 8 śrgālavartmanā ジャッカル (によって示された) 道 (を) → キツネ
- p. 260, 9 śrgāla- ジャッカル (によって示された) → キツネ
- p. 261, 4 『あなたさまは私のしっぽに捕まりなさい。』とかれを嘲ってジャッカルは言った。
→ キツネ
- p. 261, 10 chṛgālaḥ ジャッカル (は) → キツネ
- p. 261, -11 aśaraṇaṃ” / → aśaraṇaṃ duḥkham” /
- p. 262, 1 その結果、大きな沼に落込んだ象はジャッカルたちに食べられてしまった。 → キツネ
- p. 262, 11 śrgālair ジャッカル (たちによって) → キツネ
- p. 262, 14 ジャッカルたちはみんな年老いたジャッカルの知恵の力を賞賛した。
→ キツネたちはみんな年老いた詐欺師の知恵の力を賞賛した。
- p. 262, -12 jambūkā ジャッカル (たちは) → キツネ
- p. 262, -10 vañcakasya ジャッカル (の) → 詐欺師

p. 407, 7 puror (gen.sg.) pura □ - pura

p. 410, enad - etad

第4章

p. 456, -9 What dose the fool wish to do with his stick ? - does

第8章

p. 550, enad - etad

第10章

p. 622, 左 -14 khanitum (dig 1) - (dig 1) 掘り

p. 622, 左 -10 khalu 実に, 確かに, けれども, すでに - 実に, 確かに, けれども, すでに, さて

p. 622, 左 -8 khātum (inf.) √khan (1) 掘り - 削除

p. 628, 右 -1 jambuka 豺 (ヤマイヌ), ジャッカル - ジャッカル, キツネ

p. 629, 左 1 jambūka 豺 (ヤマイヌ), ジャッカル - ジャッカル, キツネ

p. 640, 右 1 dhana 富, 財産, 金, 賞品, 財宝
→ 富, 財産, 金, 賞品, 財宝, 掛け金, 競争, 報酬

p. 640, 右 11 ghanauat (f.) 富める者たち - 削除

p. 662, 右 -19 bhaginī 姉妹, 娘 - 姉妹

p. 670, 右 20 yatas どのような理由で [関副], ~けれども
→ どのような理由で, なぜなら, そこに, そこから

p. 677, 左 7 vañcake 詐欺, ペテン, ジャッカル - 詐欺師, ペテン師, キツネ

p. 678, 右 6 √vah 運ぶ, 流れる, 曳く - 運ぶ, 流れる, 所有する

p. 678, 右 8 vahati 運ぶ, 流れる - 運ぶ, 流れる, 所有する

p. 684, 左 -12 vṛddha-śṛgāla 年老いたジャッカル - キツネ

p. 688, 左 6 śuc 悲哀, 苦悩, 悲しみ - 悲哀, 苦悩, 悲しみ, 涙 (pl.), 炎, 熱

p. 688, 左 -8 śṛgāla ジャッカル, ジャッカル達, 狼, 山犬 - ジャッカル, キツネ

p. 688, 左 -6 śṛgāla-vartman ジャッカル (によって示された) 道 - キツネ